

2018/2/26

うときゅういっきの漢字夜話（ことば夜話）

時間軸（改変版）



「安物買いの銭失い」ということばがあります。

これを少し科学的というか経済学におはなしすると、

「消費者が求める、ある効用に対して、「購入時において」とても安いものが見つかったので、飛びつきはしたものの、直ぐに壊れてしまって、普通の値段の同じ効用のものを買いきなくてはならなくなった。結局「ある効用を手に入れる」のに、初めに飛びついた「とても安いもの」の分だけ、お金が余計にかかってしまい、その効用を手に入れるための「生涯コスト」が上がってしまった」

と言い換えることができます。

つまり、初めに飛びついた分だけ、お金を捨ててしまったのも同様なわけです。

それを、上記のような「購入時コストに目を奪われて生涯コストをアップさせてしまった」

といった、難しい言葉を使わずに、的確かつインパクトのある表現で

「安物買いの銭失い」と言ったわけです。

しかし、それがわかっているにもかかわらず「安物買い」をしなくてはならない場合もあります。

例えば起業時で手元資金が少ない場合です。

良いものを最初から買い揃えればいいのは分かっているけど、この手元資金が少ない場合、敢えて安物を買うような時です。

とにかく用意しなくてはならない。しかし十分な資金はない。

で、何もかも開業時にいっぺんにベスト状態でスタートするのを諦め、代わりに「時間」という考え方を取り入れて、安物を繋ぎ代わりにいったん購入し、資金が増えた段階で、良いものに買い替える。もちろん生涯コストは最初から良いものをそろえるよりは上がりますが、手元資金、つまり「キャッシュフロー」を考えるとそうせざるを得ないわけです。

一方「黒字倒産」という言葉があります。

これは、例えば当月末に売掛代金1億円が入る。売掛金になっているわけですから、既に売上は立っていて、損益勘定の上では「見掛け」儲かることになっているのですが、実際にはその手前、当月15日に、買掛代金5000万円払わなくてはならない。

しかし、手元資金は2000万円しかない。当月内の損益表上では、黒字になっているのですが、実際には16日を迎えることなく倒産してしまうというようなケースです。

「安物買いの銭失い」では、購入時のみの損得で失敗をしています。

「黒字倒産」では、期末の損益勘定のみを目をやっていて、その手前の売掛、買掛の順序を失念しています。

つまり両者とも「時間軸」というものがあることに気づかなかったり、見落とししたりしたが為の失敗でした。

いずれにせよ「時間軸」というのは、ものの見方のとても大切な要素なのです。

忘れずに覚えておきたい言葉だと思います。